

「平成28年度の研究の進め方」

1 平成27年度の研究の成果と課題

(1) 成果

技術分野

ア 生徒および地域の実態調査

限られた時間の中で、学習内容と社会とのつながりを実感させるためにも、生徒の実態を把握するアンケートの実施・活用は重要であることがあらためてわかった。

イ 生徒を取り巻く状況を踏まえた題材や課題の開発

地域に根ざした企業からの中学生に望むアンケート調査と家庭生活からの意識の違いについて分析した結果をもとに、生徒を取り巻く状況とのつながりを重視した題材や課題設定を工夫した結果、授業を通して学校生活や家庭生活への改善点・修正点を確認することができた。

学習課題の解決に向けた多様な学習活動を実践するために、既習の知識や技能との関連性に気づくことができるように、視聴覚教材やこれまでの失敗経験と対処法、適切な机間指導などが重要であることを確認できた。

家庭分野

ア 生徒および地域の実態調査

生徒の意識調査に加え、地域や家庭においても事前調査を行い、多面的に実態把握に努めることができた。このことで、生活経験不足、小学校における学習内容の定着度などが分かり、実践的・体験的な学習を意図的に設定する必要性を確認することができた。

事前・事中・事後の継続的な実態調査の実施で、意識の変容を把握することができ、実態を踏まえた適切な助言や支援など、効果的な指導を実践することができた。

イ 生徒を取り巻く状況を踏まえた題材や課題の開発

生徒や家庭・地域の実態を十分理解し、題材

構成をしたことで、「生活の振り返り→課題把握→基礎的・基本的な知識及び技能の習得→実践的・体験的な知識及び技能の習得→家庭実践→生活に生かせる力」などの学びのサイクルが構築された。このことで生徒自らが生活に関心を持ち、生活を工夫しようとする意欲をはぐくむことができた。

家庭や地域社会と効果的に連携を図ることができる題材を工夫したことで習得した知識や技能を生かす場面が増え、自己肯定感を高めたり、充実感や達成感を実感させたりすることができた。また、実際の生活で生かすことができる実践的な態度を育てることができた。

(2) 課題

技術分野

○生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるためには、評価を生かすことが求められる。また、生徒の実態を把握するための調査や学習活動を改善するための評価などを的確な時期に行う必要がある。

○家庭生活との関わりのある学習活動を行うためには、基礎的な内容から応用的な内容へと段階的な学習活動が必要である。さらに、その中で問題解決的な学習活動に取り組ませる必要がある。

家庭分野

○生徒の実態を把握するために、調査方法「記述式、質問式」や質問項目、選択肢などの表記について精査するための研究も必要であることを感じた。

○社会の変化や地域性、多様な家庭環境に対応することができる力の育成を目指し、先人から伝承されてきた普遍的な基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させるために、系統性や繰り返しを大切にした題材設定の工夫や課題解決について研究を深めていきたい。

2 平成28年度の研究推進について

(1) 研究主題

研究主題

「社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむ指導はどうあればよいか」

(2) 研究の趣旨

現行学習指導要領は、知識基盤社会の時代において「生きる力」をはぐくむという理念を継承し、その基礎となる学力の重要な要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等及び学習意欲」を重視している。本教科においては、体験から知識と技術を獲得し、基本的な概念の理解を深め、実際の生活などに活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視している。したがって、生徒の発達の段階や学習のねらいを考慮して、製作、整備、操作、調理などの実習や、観察・実験、見学、調査・研究など、それぞれの特徴を生かした適切な学習活動を設定し、指導の効果を高めることが求められている。

また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実させなければならない。将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくためには、社会生活や家庭生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして解決することができる能力、すなわち問題解決能力を備えることが必要になる。そこで、本教科にとっての最終目標である「生活を工夫し創造する能力」を「生活に生かせる力」ととらえ、これをはぐくむことを研究主題とした。生活に必要な知識や技術を活用しながら課題を解決していく実践的・体験的な学習活動を取り入れ、学んだことを進んで生活の場で活用し、豊かな生活を創造する生徒の育成を目指した研究に取り組んでいきたい。

(3) 研究推進の概要

○ 1年次

「生徒を取り巻く状況とのつながりを重視した題材や課題設定の工夫」

平成27年度の研究概要

生徒を取り巻く状況（家庭における生活、学校における生活、地域社会における生活、社会を取り巻く環境）を踏まえ、学習した事柄を実際に生かすことが大切である。そこで、生徒の実態を吟味し、基礎的・基本的な知識や技術の習得が意識化された題材や課題設定について研究する。

○ 2年次

「習得した知識や技術を適切に活用して課題解決する体験的な学習活動の工夫」

平成28年度の研究概要

ものづくりや衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を組み立てるためには、基礎的・基本的な知識や技術をしっかりと定着させ、その学んだ知識と技術を適切に活用してよりよい生活を営むための課題を解決していくことが大切である。そこで、生活に必要な課題を解決していく実践的な意欲をはぐくむ学習活動について研究する。

○ 3年次

「生活に生かせる実践的な態度を育てる評価の工夫」

平成29年度の研究概要

生活に必要な基礎的・基本的な知識や技術を獲得し、基本的な概念の理解を深め、様々な場面において技術を適切に評価し活用できることが望まれる。そこで、より豊かな生活を創造するための実践的な態度を高める評価の工夫について研究する。

3 平成28年度の具体的研究内容

副主題

習得した知識や技術を適切に活用して課題解決する体験的な学習活動の工夫

(1) 研究内容

本研究主題を実現させるためには、生活のさまざまな場面で生じる課題に対して、主体的にその課題を解決していく問題解決能力が重要である。そのために本教科においては、様々な実習や学習活動を通して、基礎的・基本的な知識および技能を習得する必要がある。

学習活動を検討する際に重要なことは、今までの学習において生徒が習得した知識や技術を活用して課題を解決するような実践的・体験的な学習活動を展開することが大切である。その際、どんな知識や技術を活用させたいかということを指導者が意識することが求められている。また、今までの生活経験や知識や技術をどの程度習得できているか、個々の児童生徒の実態把握を十分することも必要になってくる。

ものづくりや衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を組み立てるためには、基礎的・基本的な知識や技術をしっかりと定着させ、習得した知識と技術を適切に活用してよりよい生活を営むための課題を解決していくことが大切である。そこで、生活に必要な課題を解決していく実践的な意欲をはぐくむ学習活動について研究していきたい。

(2) 研究方法

ア 習得した知識・技術の「活用」場面の設定

前年度は、生徒を取り巻く状況（生徒および地域の実態）を調査し、その結果を踏まえ、学習した事柄を実際に生かすために基礎的・基本的な知識や技術の習得が意識化された題材や課題設定について研究を進めてきた。前年度の取り組みで明確になった生徒の生活を取り巻く状況や既習の知識・技術をどの程度習得できているか等、個々の生徒の実態把握を今年度も継続して続ける必要が

ある。また、題材において、習得した知識や技術を活用して課題を解決するような学習場面を意図的に設定することが大切である。

そこで、本時の学習活動では、授業内のどの場面で習得した知識・技術を活用させようとしているのかを明確にし、指導過程の作成を進めていく。

イ 実践的な意欲をはぐくむ体験的な学習活動の工夫

生徒が生活を意識できる実践的・体験的な学習活動を展開することで、生徒に生活者としての意識（実践的な意欲）が生まれ、実際の生活に生かせる力が育っていくと考えられる。生徒の問題解決能力を高めるために現状を正確に把握し、問題の原因を見極め、効果的な解決手段を考え、実行する問題解決的な学習を通し、授業を展開していく必要がある。

今年度は体験的な学習活動や問題解決的な学習を重視することにより、生活者としての意識を高め、実践的な意欲をはぐくむ多様な学習活動について研究を進めていく。どのような手だてや支援、しかけが考えられるかを明確にしていきたい。また、生徒の実態に応じて一斉学習や小集団学習（グループ学習やペア学習等）、個別学習を適切に取り入れるなど、それぞれの学習活動にあった学習形態を取り入れ、学習効果を高めるよう工夫していきたい。

なお、実践的な意欲をはぐくむ体験的な学習活動の工夫についての手だてを学習指導案内に記載することとする。

4 各支部の分担について

平成28年度 福島県大会開催地 県北地区 10月12日(水)

福島市立信陵中学校（技術分野） 福島大学附属中学校（家庭分野）

東北大会開催県 青森県 11月2日(水)

八戸市立白山台中学校

年度	H27	H28	H29
県大会開催地区	県中県南	県北	未定
東北大会開催県	宮城	青森	秋田(全国大会)
研究分野	分担支部 県大会・東北大会発表地区		
①材料と加工に関する技術	岩 瀬	東西しらかわ	相 馬・両 沼
②エネルギー変換に関する技術	耶 麻・安 達	伊 達・石 川	郡 山
③生物育成に関する技術	北会津	福 島・双 葉	福 島・双 葉
④情報に関する技術	田 村・南会津	いわき	いわき
⑤家族・家庭と子どもの成長	福 島・双 葉	福 島・双 葉	伊 達・岩 瀬
⑥食生活と自立	田 村・石 川	東西しらかわ	北会津
⑦衣生活と住生活の自立	安 達・南会津	いわき・両 沼	いわき・両 沼
⑧身近な消費生活と環境	郡 山・耶 麻	相 馬	郡 山・耶 麻

5 主題研修会持参資料について

平成28年度 技術・家庭科部研究推進計画（技術分野）		1 ー 福島			
		（支部番号）		（支部名）	
1 研究主題及び研究副主題		支部番号	1-福島	2-伊達	3-安達
研究主題「社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力を		4-郡山	5-岩瀬	6-石川	7-田村
研究副主題（第2年次）「習得した知識や技術を適切に活用し		8-東西しらかわ	9-北会津		
の工夫」		10-耶麻	11-両沼	12-南会津	
2 研究対象		13-相馬	14-双葉	15-いわき	
例「材料と加工に関する技術」※ 支部の分担による					
3 前年度までの研究の成果と課題					
4 支部研究の方向性					
※ 研究主題や研究副主題をうけ、支部としてどう捉え、どのように研究を進めていくのか					
支部内の意見をもとにまとめる。					
5 研究計画					
※ 研究の計画、内容、方法について記述する。研究する内容が確定していれば明記する。					
※ 役割分担など					
6 研究を進めるにあたっての課題					
※ 学習指導要領実施における課題の留意点、各支部の現状などを含めて書いてもよい。ただし、ここで課題として挙げておくだけでなく、県大会の研究協議会では、これらの課題に対してどう解決を図ろうとしたのかが見えてくるような取組みをする。					

